

平成 29 年度相模原看護専門学校自己点検・自己評価について

1. 趣 旨

この自己点検・自己評価は、看護師養成所としての本校の「教育水準の維持・向上」及び「創意工夫のある教育の追及」を図るため、教育評価の一環として、循環的、継続的に実施するもの。

2. 評価方法

(1) 相模原看護専門学校「自己点検・自己評価規程」に基づき、国の「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を参考に、昨年と同様に各教員が各自で評価を平成 30 年 3 月末までに実施した。その結果を、平成 30 年 4 月に自己評価委員会（学校長ほか教職員 6 名）を設置し、分析・検討を行った。

(2) 9 カテゴリー・125 項目について、次の基準により評価を行い、数値化した。

【評価基準】

よく当てはまる：3 大体当てはまる：2 当てはまらない：1

3. 評価結果の概要

(1) 評 価

* () の数値は 28 年度

カテゴリー【項目数】	主な項目（要約）	平均数値
I 教育理念・教育目的 【11】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、目的は養成所の教育上の特徴を示している ・教育理念、目的は学生の学習の指針になっている ・看護学、学生観は教師の教育活動の指針となっている 	3.00 (3.00)
II 教育目標 【7】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標は、教育理念・目的と一貫性がある ・教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している ・卒業後の継続教育の考え方を示している 	2.98 (3.00)
III 教育課程経営 【31】	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。 ・単位認定の基準、方法は妥当である ・実習施設は、教育理念・目標を理解している 	2.83 (2.88)
IV 教授・学習・評価課程 【17】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容（講義・演習等）は内容に応じ選択している ・評価結果に基づいて、授業を改善している ・単位認定の評価は、公平性が保たれている 	2.80 (2.79)
V 経営・管理課程 【36】	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定システムが明確になっている ・財政基盤を確保することの考え方が明確である ・自己点検・自己評価システム体制を整え運用している 	2.86 (2.88)
VI 入学 【2】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、目的に沿った入学者選抜の考え方がある ・入学者状況、推移について入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している 	2.88 (2.92)

VII 卒業・就業・進学 【8】	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時の就業・進学状況を分析している ・就業先での評価を把握し、問題を明確にしている ・卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している 	2.86 (2.82)
VIII 地域社会・国際交流 【10】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への貢献を組織的に行っている ・地域資源を養成所の教育活動に取り入れている ・海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制がある 	2.70 (2.59)
IX 研究 【3】	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究活動を保障している ・教員の研究活動を助言、検討する体制を整えている ・教員相互で支援し合う文化的素地がある 	2.78 (2.50)

(2) 総括 ～主な取組と課題～

「I 教育理念・教育目的」・「II 教育目標」

2項目とも平成28年度ほぼ同様の評価結果で3.0と2.98であった。教育目標の実現に向けて、各学年及び卒業時の到達目標を明確にするとともに、卒業後の継続教育・学習姿勢にも連動させている。

「III 教育課程経営」・「IV 教授・学習・評価課程」

2項目とも2.80以上であり、平成28年度とほぼ同様の評価結果で、講師や実習施設の協力により順調に実施できた。各教員がアクティブ・ラーニングを取り入れた授業設計に努力し、学生からの授業評価も向上した。看護実践能力の向上に向けて、30年度は、演習等における実習施設との人事交流や診療所臨地実習の実施に向けた調整に取り組んでいきたい。

「V 経営・管理課程」

経営・管理課程は2.86であり、平成28年度とほぼ同様の評価結果であった。平成29年度は、30年4月の学生定員拡大完了に向け、環境整備に取り組むとともに、中期経営計画の総括評価を行い、新たに第2次中期経営計画を策定した。30年度は新経営計画に掲げた目標達成に向け教員の意識を高めていきたい。経営に係る課題としては、引き続き施設・設備の老朽化への対処や教員の確保など、教育環境の維持・充実に向け、財源の確保等の課題に取り組む必要がある。

「VI 入学」

入学は、2.88(昨年度2.92)であり、昨年度をやや下回る評価結果となった。受験者については241名(昨年度249名)と、若干減少したが、倍率では2.57倍(昨年度2.41倍)を確保し、基礎学力を一定ライン保つことができた。さらに、平成29年度入学生より、推薦入学者と社会人入学者に入学前学習を導入し、受講率は平成29年度入学生80%、平成30年度入学生62.5%であった。

また、受験者については、今後も、少子化や大学志向等の要因から、確保が厳しい状況が続くと思われる、確保対策の一つとして、30年度入学試験問題を公表したが、今後も広報活動の充実等により、受験者の確保に努めていきたい。

「VII 卒業・就業・進学」

卒業・就業・進学は2.86であり、平成28年度とほぼ同様の評価結果であったが、国家試験合格率は100%（昨年度94.6%）を達成した。また、就業・進学に関しては、学生の意向を把握し、希望や適性をふまえた助言を行うとともに、市内就職の促進に向けた取組を継続的に進めた結果、市内施設及び市外実習施設を合わせた就職率は87.5%と高い実績を得ることができた。

次年度は80名定員の卒業生のため、卒業生の就職先の評価や就業先との情報交換を行い、これらの情報の整理・分析、教育活動への反映を図っていく必要がある。

「VIII 地域社会・国際交流」

地域社会・国際交流は2.70（昨年度2.59）と全カテゴリーの中で最も低いが、昨年度よりやや上昇した。地域社会との連携については、学校近隣の小学校や高校の校外学習等への協力をはじめ、学生のボランティア活動の一環として地区の健康まつりや食育フェア等へ参加するとともに、地域の安全・安心まちづくり活動として、隣接施設との合同防災訓練に参加した。また、市病院協会が主催する看護職確保対策事業への協力として、学校の演習室・教材を提供した。

国際交流については、NPO法人に依頼し海外の医療・看護活動の実情を学習した。留学生や外国籍の学生も入学しており、個々に合わせた対応を行っている。今後は、国際交流の手法についても検討していく必要がある。

「IX 研究」

研究は、2.78（昨年度2.50）であり、平成27年度の1.33からは大きく上昇した。教職員が希望する研修等への参加は保障されており、学会等積極的に参加した。また、当校における研究授業への取組においても積極的な参加が見られ、教員の研究への意識は高まった。研究授業の効果から、年々評価が上昇したと考える。

しかしながら、教員が定数どおり確保できていないことや、教員の長期研修による人材不足などから日々の業務に追われ、研究活動や研究発表には至っていない。今後は、研究の整理や発表、成果の共有化などの取組のほか、教育活動の助言や教員相互で支援するなどの組織的な体制づくりについて、整えていく必要がある。